

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：82611

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K17261

研究課題名（和文）精神疾患の処方行動における治療ガイドラインの普及と教育の効果検証

研究課題名（英文）Effectiveness of guideline for dissemination and education on the treatment behavior of psychiatrists

研究代表者

長谷川 尚美（HASEGAWA, Naomi）

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所 精神疾患病態研究部・リサーチフェロー

研究者番号：70865906

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：EGUIDEプロジェクトは、精神科医療の普及と教育に対するガイドライン（以下GL）の効果に関する研究である。本研究は、実臨床における医師の治療行動に対するGL講習（教育）の効果を検証すべく、2016～2019年度に収集した治療データを用いて、GL講習を受講した医師と受講していない医師でGL推奨治療の実施率を比較した。結果、いくつかの推奨治療において、GL講習を受講した医師の方が実施率が高いこと、加えて受講した医師においても4年間の間に徐々に増加していることを明らかにした。この結果より、EGUIDEプロジェクトのGL講習はGLを普及し実臨床の治療行動の改善に有効であると証明することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

診療ガイドライン（GL）とは、科学的根拠などに基づいて最適と考えられる治療法等を提示する文書である。本邦において精神科領域のGLが発表されてから約10年経過したが、未だに本邦のGL推奨治療（例：統合失調症における抗精神病薬単剤治療）の実施率は諸外国よりも低く問題となっている。加えて、医療機関ごとに推奨治療の実施率が0～100%と大きくバラついている。この問題を解決すべく、EGUIDEプロジェクトはGLの普及と教育を行っており、本研究によってその活動が実臨床の治療行動の改善に有効であると証明された。GLの普及によって治療が均てん化され、全国の患者のQOL改善に貢献することが期待されている。

研究成果の概要（英文）：This study aims to examine the real-world effectiveness of education regarding clinical guidelines for psychiatric disorders using 'the Effectiveness of guidelines for dissemination and education in psychiatric treatment (EGUIDE)' project. Treatment data collected in 2016-2019 were used to compare between patients under the care of psychiatrists participating in the project and those not participating in the project. Results revealed that some proportions of recommended treatments were higher among participating psychiatrists than among nonparticipating psychiatrists, and furthermore, that it increased gradually over time. This strategy of providing education regarding the clinical guidelines for psychiatric disorders was effective in improving the treatment-related behavior of psychiatrists.

研究分野：薬学

キーワード：社会実装 治療ガイドライン 統合失調症 うつ病 抗精神病薬

1. 研究開始当初の背景

近代において「根拠に基づいた医療」が世界に急速に広まり、それを実践するための共通ツールとして様々な医療分野において治療ガイドラインが作成されている。治療ガイドラインはエビデンスに基づいて作られており、患者と医療者が相談して治療方針を決定するために用いられるものである。一方、その適応には限界があり、臨床現場において必ずしも採用されておらず、ガイドラインの推奨治療と、臨床現場で日常的に行われている治療との間に溝 (Evidence Practice Gap) があることが指摘されている。例えば、統合失調症薬物治療ガイドラインでは抗精神病薬の単剤治療が推奨されているが、実臨床においては抗精神病薬を2剤以上併用する多剤併用治療が頻繁に行われていることが問題となっている。この問題を解決するためにはガイドラインを社会に実装させる必要がある。短期的に小規模ではガイドラインの実装に有効な戦略がいくつか存在するが、長期に効果が持続し全国規模で行動変容を起こせるような戦略は確立されていない。全国規模でガイドラインを社会実装させる新たな戦略として本邦でスタートしたプロジェクトが EGUIDE プロジェクトである。

EGUIDE プロジェクトは2016年に開始され、2020年10月時点で40以上の大学と150以上の医療機関が参加する国内外に例がない治療ガイドラインの普及と教育の効果を検証する研究である (<https://byoutai.ncnp.go.jp/eguide/>)。EGUIDE プロジェクトでは精神科領域のガイドラインの中で、「統合失調症薬物治療ガイドライン」と「日本うつ病学会治療ガイドライン 大うつ病性障害」を扱っている (<http://asas.or.jp/jsnp/csinfo/03.html>, <https://www.secreariat.ne.jp/jsmd/iinkai/katsudou/kibun.html>)。特に統合失調症薬物治療ガイドラインは、精神科領域において本邦初の日本医療機能評価機構 EBM 普及推進事業 Minds (マインズ) 法に則ったエビデンスに基づいたものである。Minds ではガイドラインの作成だけでなく、その後の普及・教育・そして検証を行うことを推奨しているが、本邦のみならず諸外国においても実際にガイドラインの普及と教育の効果を検証した研究は申請者が調べた限りでは見当たらない。

EGUIDE プロジェクトの戦略は、2つの実装項目と、その効果を測る3つの評価項目から成り立っている (図1)。社会実装は、「1. ガイドラインの作成」「2. ガイドライン講習」によりガイドラインの普及と教育を、大学病院を中心とした全国の精神科医に対し実施している。その効果を評価するステップとして、「3. 精神科医個人のガイドラインに対する理解度」「4. 実臨床において講習で学んだことを実践」「5. 実際の処方行動」という3つの評価項目を医療の質 (Quality Indicator, 以下 QI) として数値化する。そして、最終的には患者の QOL の向上を目指している。さらに EGUIDE ではステップを昇るのみならず、実装効果の向上を目指して、各評価項目の QI より得られた結果をフィードバックしブラッシュアップを繰り返し行い、すべての QI を十分に向上させる最終目標を掲げている。

EGUIDE プロジェクトではこれまでに、講習によって医師の理解度が精神科としての経験年数に関わらず向上するということが明らかにした (Takaesu et al, 2019)。また、EGUIDE で収集した処方データのベースラインをまとめた報告が発表され、施設間の QI 値が大きくばらついてることを明らかにした (Ichihashi et al, 2020. Iida et al, 2020)。

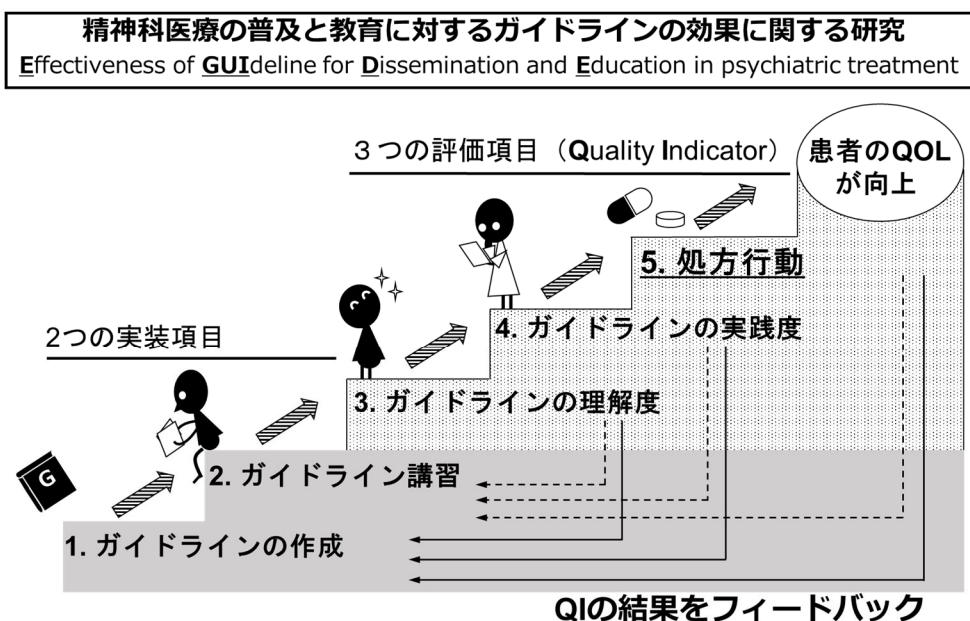


図1 EGUIDEプロジェクトの戦略

2. 研究の目的

現在の日本での精神科診療では、向精神薬の多剤併用での治療が広く行われており問題となっている。治療ガイドラインの普及を行うことで、全国のどこにいても誰でもが診療ガイドラインの推奨する治療、つまり多剤併用でない治療を受けられるようになることが期待される。

本研究は、ガイドラインを社会実装させる研究である EGUIDE プロジェクトの戦略のうち「3.精神科医個人のガイドラインに対する理解」、「4.実臨床において講習で学んだことを実践」、「5.実際の処方行動」という3つの評価項目を医療の質(Quality Indicator, 以下 QI)として数値化し、普及と教育の効果を検証する。

具体的には、「5.実際の処方行動」について、EGUIDE プロジェクトで収集した治療データを用いて、各 QI の実臨床における実態を解析し把握すること、実態から新たな問題点や解決策を見出すこと、さらに普及と教育の効果を明らかにすべく担当医の受講状況に沿って症例を比較し、講習の効果がどのような処方行動の QI (図2) に影響を及ぼすかどうか検討する。

また、各評価項目の QI より得られた結果を、プロジェクトに参加する施設にフィードバックし、ガイドラインの推奨治療に対する意識向上とブラッシュアップを行う。

3. 研究の方法

本研究にて使用する処方調査データは 2016~2019 年の間に EGUIDE プロジェクトに参加する医療機関から提供されたすべての統合失調症、もしくはうつ病症例の処方データ計約 14000 症例である。その他、2016~2019 年の間に参加した約 840 名の受講者から提供されるデータとして、年齢、精神科医歴、所属施設の属性などの基本データがある。それぞれのデータは、データクリーニングとキュレーションを行った後使用する予定である。処方行動の QI はガイドラインを基に作成されたものを使用する(図3)。

ガイドライン講習の効果を検討するために、症例の担当医を受講状況(受講前・受講後・未参加の医師)によって分類し、処方データを受講後群と受講前群に分け比較する。解析の方法としては、受講前 or 後 × 抗精神病薬の単剤治療 or 併用治療というようなクロス表を作成し、カイニ乗検定を行う。この結果から、ガイドライン講習の受講により処方行動の QI 値が向上した QI 項目を導き出すことが可能である。受講者の年齢・精神科医歴などの背景が交絡因子として処方行動の QI に影響を及ぼしているかどうか検討を行う。

プロジェクトに参加する施設に処方行動の結果をフィードバックするために、各施設ごとの各 QI を算出し、グラフなどを用いて可視化する。加えて、プロジェクト内におけるランキングも併記し、全国において自施設がどこに位置しているか可視化することで、ガイドラインの推奨治療に対する意識向上とブラッシュアップを図る。

QI 統合失調症例におけるQI	
1	抗精神病薬単剤治療率
2	抗精神病薬単剤治療率(他の向精神薬との併用もなし)
3	抗不安薬・睡眠薬の処方されていない割合
4	抗うつ薬が処方されていないものの割合
5	気分安定薬・抗てんかん薬が処方されていないものの割合
6	持効性注射剤治療率
7	クロザピン治療率
8	修正型電気けいれん療法治療率
QI うつ病症例におけるQI	
1	抗うつ病薬単剤治療率
2	抗うつ病薬単剤治療率(他の向精神薬との併用もなし)
3	抗不安薬・睡眠薬の処方されていない割合
4	修正型電気けいれん療法治療率
5	認知行動療法実施率

図2 本研究で使用する処方行動のQI一覧

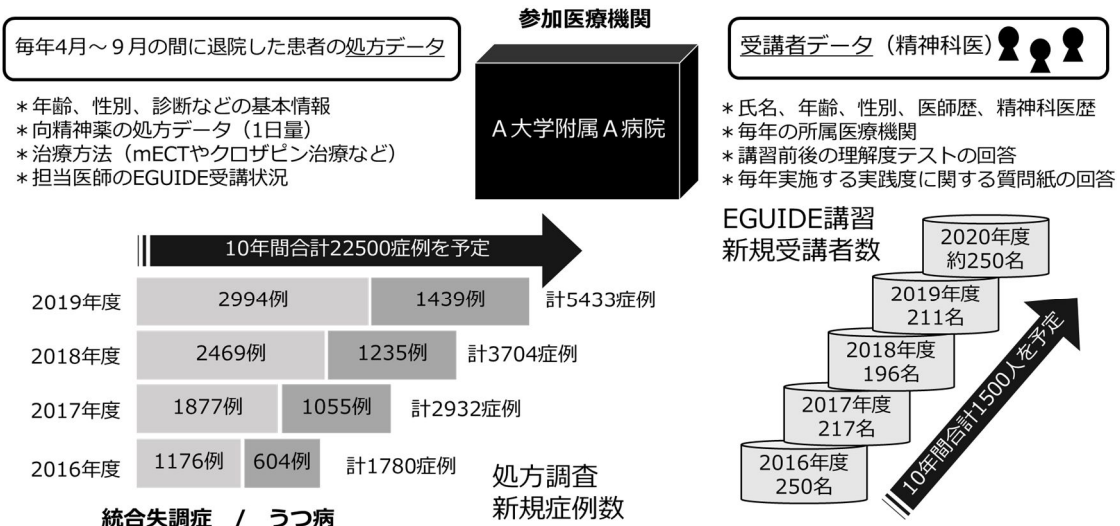


図3 EGUIDEプロジェクトにおけるデータ収集内容と予想される規模

4. 研究成果

(1) EGUIDE プロジェクトのガイドライン講習の効果を検討するために、講習受講後の医師が担当した患者 (EGUIDE (+) 群) と受講していない医師が担当した患者 (EGUIDE (-) 群) について、処方行動の QI を比較した。患者の年齢、性別、施設属性は QI と関連することが以前に報告されているため、ロジスティック回帰分析を用い交絡因子としてこれらの因子を調整して講習受講の効果を検討した。8 つの統合失調症の QI のうち、QI-1(抗精神病薬単剤治療、EGUIDE (+): 58.6%, EGUIDE (-): 53.8%)、QI-2(抗精神病薬単剤治療(他の向精神薬との併用もなし)、EGUIDE (+): 20.8%, EGUIDE (-): 15.6%)、QI-3(抗不安薬・睡眠薬の処方されていない割合、EGUIDE (+): 37.7%, EGUIDE (-): 33.0%) について、講習受講後の医師が担当した患者の方がガイドラインの推奨治療実施率が高かった (図 4)。一方、統合失調症患者における残りの 5 つの SQI については、講習受講の効果は認められなかった (図 4)。5 つのうつ病の QI のうち、QI-2(抗うつ薬単剤治療率(他の向精神薬との併用もなし)、EGUIDE (+): 10.5%, EGUIDE (-): 6.7%)、QI-3(抗不安薬・睡眠薬の処方されていない割合、EGUIDE (+): 30.2%, EGUIDE (-): 24.4%) について、講習受講後の医師が担当した患者の方がガイドラインの推奨治療実施率が高かった (図 4)。QI-1(抗うつ薬単剤治療、EGUIDE (+): 64.2%, EGUIDE (-): 58.5%) については、講習受講後の医師が担当した患者の方が高かったが統計学的有意差は見られなかった。一方、うつ病における残りの 2 つの QI については、講習受講の効果は認められなかった (図 4)。

統合失調症におけるQI	オッズ比 [95% CI]	P value
SQI-1:抗精神病薬単剤治療率	1.18 [1.07-1.31]	1.3×10^{-3}
SQI-2:抗精神病薬単剤治療率 (他の向精神薬との併用もなし)	1.42 [1.25-1.62]	1.2×10^{-7}
SQI-3:抗不安薬・睡眠薬の処方されていない割合	1.24 [1.12-1.38]	6.5×10^{-5}
SQI-4:抗うつ薬が処方されていないものの割合	1.11 [0.92-1.33]	0.27
SQI-5:気分安定薬・抗てんかん薬が処方されていないものの割合	1.10 [0.97-1.23]	0.13
SQI-6:持効性注射剤治療率	1.22 [1.03-1.44]	0.023
SQI-7:クロザピン治療率	0.92 [0.74-1.14]	0.44
SQI-8:修正型電気けいれん療法治療率	0.89 [0.71-1.12]	0.31
うつ病症例におけるQI	OR [95% CI]	P value
DQI-1:抗うつ病薬単剤治療率	1.23 [1.06-1.42]	5.5×10^{-3}
DQI-2:抗うつ病薬単剤治療率 (他の向精神薬との併用もなし)	1.63 [1.28-2.08]	7.6×10^{-5}
DQI-3:抗不安薬・睡眠薬の処方されていない割合	1.36 [1.16-1.59]	9.8×10^{-5}
DQI-4:認知行動療法実施率	1.08 [0.54-2.16]	0.83
DQI-5:修正型電気けいれん療法治療率	0.99 [0.80-1.22]	0.92

図4 EGUIDE講習受講による処方行動のQIの変化

(2) 講習受講の効果が見られた QI について、年数経過の影響を検討した。具体的には、EGUIDE プロジェクトに参加している医師 (EGUIDE (+)) について講習受講前を 0 年 (pre-EGUIDE) とし、講習後 1 年目、2 年目、3 年目、と経過年数の影響を検討した。対して、EGUIDE プロジェクトに参加していない医師 (non-EGUIDE) の年度ごとの QI の解析を行った。解析はロジスティック回帰分析を用いて、交絡因子、年齢、性別、施設属性を調整して行った。3 つの統合失調症の処方行動の QI について、どれも EGUIDE プロジェクトに参加している医師については経年的に実施率が有意に増加していた (図 5.A,B,C)。一方、EGUIDE プロジェクトに参加していない医師では、QI-1(抗精神病薬単剤治療率)が経年的に有意に減少し、QI-2(抗精神病薬単剤治療(他の向精神薬との併用もなし))、QI-3(抗不安薬・睡眠薬の処方されていない割合)に差はみられなかった (図 5.A,B,C)。2 つのうつ病の処方行動の QI について、どれも EGUIDE プロジェクトに参加している医師については経年的に実施率が有意に増加していた (図 5.D,E)。一方、EGUIDE プロジェクトに参加していない医師では、差が見られなかった (図 5.D,E)。

(3) 本研究によって、EGUIDE プロジェクトのガイドライン講習によってガイドライン推奨治療の実施率が高くなること、さらに、それは経年的に増加していくことも明らかとなった。この結果は Psychiatry and Clinical Neurosciences 誌に掲載されている (Hasegawa and Yasuda et al, 2023)。現在様々な医療領域において、診療ガイドラインが作成されているが、臨床現場で実際に活用される、すなわち社会実装されるためにはどうすればよいかは明確でなかった。このような講習会活動が、精神科領域のみでなく、すべての診療領域やすべての診療ガイドラインにおいて行われるようになれば、診療ガイドラインの社会実装が促進される可能性がある。

(4) 各評価項目の QI より得られた結果を、プロジェクトに参加する施設にフィードバックを毎年実施した。各年度ごと、参加施設の QI 値を棒グラフで示し、全症例を合算した QI 値 (全国 QI 値) と、対象施設の QI 値 (貴施設の QI 値) をグラフ上で示すことで、自施設の QI 値が全国の施設の中でどの程度のレベルに位置しているか可視化した (図 6)。可視化されることで自施設の強みや弱みを把握することで、日々の診療をより良くするための資料として活用されている。

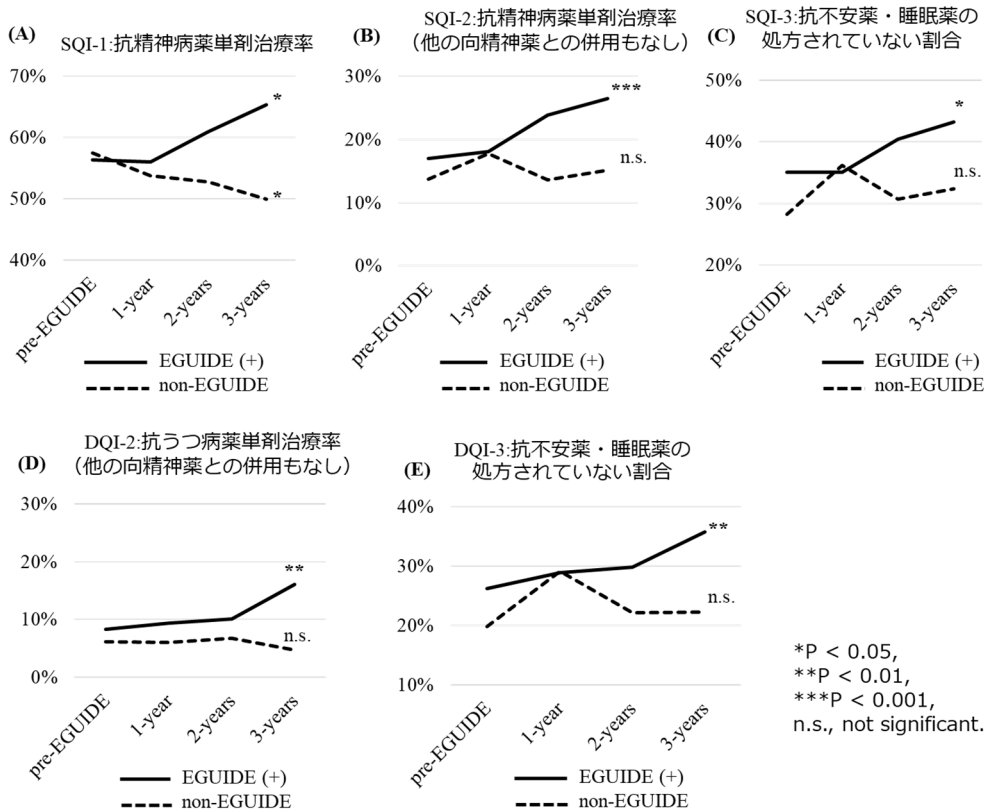


図5 EGUIDE講習受講後の処方行動のQIの経年変化

QI-1: 統合失調症患者における抗精神病薬単剤治療率

分子: 退院時処方において抗精神病薬の単剤治療を行っている患者数
 分母: 治療を受け退院した統合失調症患者数

▼ 貴施設のQI値

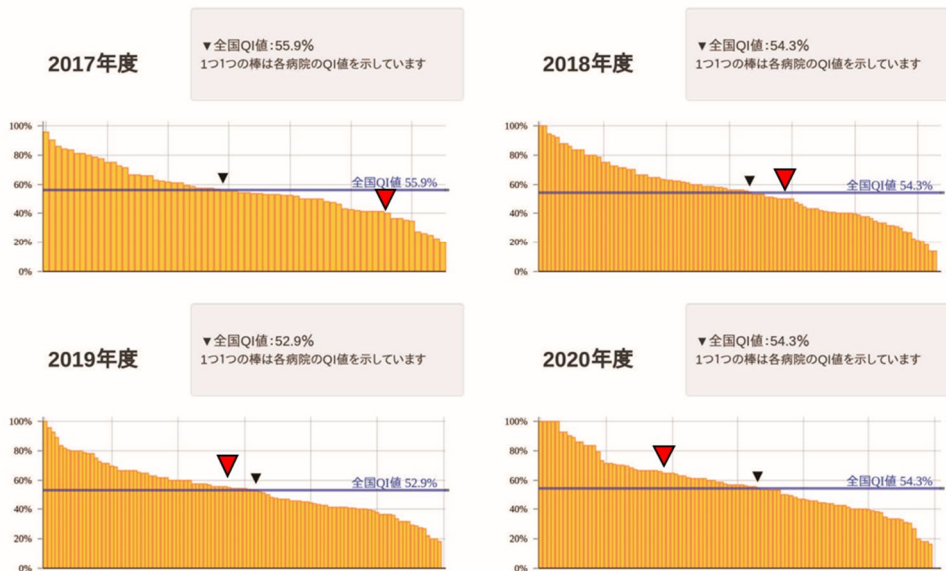


図6 各施設へのフィードバックの例

本研究の掲載情報

Hasegawa N, Yasuda Y, Yasui-Furukori N, Yamada H, Hori H, Ichihashi K, Takaesu Y, Iida H, Muraoka H, Kodaka F, Iga J, Hashimoto N, Ogasawara K, Ohi K, Fukumoto K, Numata S, Tsuboi T, Usami M, Hishimoto A, Furihata R, Kishimoto T, Nakamura T, Katsumoto E, Ochi S, Nagasawa T, Atake K, Kubota C, Komatsu H, Yamagata H, Ide K, Takeshima M, Kido M, Kikuhchi S, Okada T, Matsumoto J, Miura K, Shimaza T, Inada K, Watanabe K, *Hashimoto R. Effect of education regarding treatment guidelines for schizophrenia and depression on the treatment behavior of psychiatrists: A multicenter study. *Psychiatry Clin Neurosci*, 77(10):559-568, 2023.10 DOI: 10.1111/pcn.13578

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 17件）

1. 著者名 Onitsuka Toshiaki, Okada Tsuyoshi, Hasegawa Naomi, (34名中略)Hashimoto Ryota	4. 巻 43
2. 論文標題 Combination Psychotropic Use for Schizophrenia With Long-Acting Injectable Antipsychotics and Oral Antipsychotics	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Psychopharmacology	6. 最初と最後の頁 365 ~ 368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/JCP.0000000000001704	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto Naoki, Yasui-Furukori Norio, Hasegawa Naomi, (30名中略)Hashimoto Ryota	4. 巻 23
2. 論文標題 Change of prescription for patients with schizophrenia or major depressive disorder during admission: real-world prescribing surveys from the effectiveness of guidelines for dissemination and education psychiatric treatment project	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12888-023-04908-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hasegawa Naomi, Yasuda Yuka, Yasui Furukori Norio, (36名中略)Hashimoto Ryota	4. 巻 77
2. 論文標題 Effect of education regarding treatment guidelines for schizophrenia and depression on the treatment behavior of psychiatrists: A multicenter study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 559 ~ 568
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13578	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamagata Hirota, Fujii Yuko, Ochi Shinichiro, Seki Tomoe, Hasegawa Naomi, (21名中略)Hashimoto Ryota	4. 巻 4
2. 論文標題 Effect of the guideline education program on anticholinergic and benzodiazepine use in outpatients with schizophrenia and major depressive disorder: The effectiveness of guidelines for dissemination and education in psychiatric treatment (EGUIDE) project	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Psychiatry Research Communications	6. 最初と最後の頁 100158 ~ 100158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psycom.2024.100158	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hori Hikaru, Yasui-Furukori Norio, Hasegawa Naomi、(36名中略)Hashimoto Ryota.	4. 巻 13
2. 論文標題 Prescription of Anticholinergic Drugs in Patients With Schizophrenia: Analysis of Antipsychotic Prescription Patterns and Hospital Characteristics	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyt.2022.823826	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Muraoka Hiroyuki, Kodaka Fumitoshi, Hasegawa Naomi、(34名中略)Hashimoto Ryota	4. 巻 74
2. 論文標題 Characteristics of the treatments for each severity of major depressive disorder: A real-world multi-site study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Journal of Psychiatry	6. 最初と最後の頁 103174 ~ 103174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajp.2022.103174	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ochi Shinichiro, Tagata Hiromi, Hasegawa Naomi、(32名中略)Hashimoto Ryota	4. 巻 25
2. 論文標題 Clozapine Treatment Is Associated With Higher Prescription Rate of Antipsychotic Monotherapy and Lower Prescription Rate of Other Concomitant Psychotropics: A Real-World Nationwide Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Neuropsychopharmacology	6. 最初と最後の頁 818 ~ 826
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ijnp/pyac036	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okada Tsuyoshi, Hori Hikaru, Hasegawa Naomi、(35名中略)Hashimoto Ryota	4. 巻 42
2. 論文標題 Second-Generation Antipsychotic Monotherapy Contributes to the Discontinuation of Anticholinergic Drugs in Hospitalized Patients With Schizophrenia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Psychopharmacology	6. 最初と最後の頁 591 ~ 593
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/JCP.0000000000001604	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inada Ken、Fukumoto Kentaro、Hasegawa Naomi、(35名中略)Hashimoto Ryota	4. 巻 42
2. 論文標題 Development of individual fitness score for conformity of prescriptions to the “Guidelines For Pharmacological Therapy of Schizophrenia”	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 502～509
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12293	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kyou Yoshitaka、Yasui-Furukori Norio、Hasegawa Naomi、(35名中略)Hashimoto Ryota	4. 巻 21
2. 論文標題 The characteristics of discharge prescriptions including pro re nata psychotropic medications for patients with schizophrenia and major depressive disorder from the survey of the “Effectiveness of guidelines for dissemination and education in psychiatric treatment (EGUIDE)” project	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Annals of General Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12991-022-00429-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsuboi Takashi、Takaesu Yoshikazu、Hasegawa Naomi、(35名中略)Hashimoto Ryota	4. 巻 77
2. 論文標題 Effects of electroconvulsive therapy on the use of anxiolytics and sleep medications: a propensity score matched analysis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 30～37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13489	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fukumoto Kentaro、Kodaka Fumitoshi、Hasegawa Naomi、(35名中略)Hashimoto Ryota	4. 巻 43
2. 論文標題 Development of an individual fitness score (<scp>IFS</scp>) based on the depression treatment guidelines of in the Japanese Society of Mood Disorders	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 33～39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12301	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iida Hitoshi, Okada Tsuyoshi, Nemoto Kiyotaka, Hasegawa Naomi, (30名中略)Hashimoto Ryota	4. 巻 43
2. 論文標題 Satisfaction with web based courses on clinical practice guidelines for psychiatrists: Findings from the “Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)” project	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 23 ~ 32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12300	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Numata Shusuke ,Nakataki Masahito ,Hasegawa Naomi ,(24名中略) Hashimoto Ryota.	4. 巻 41
2. 論文標題 Improvements in the degree of understanding the treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorder in a nationwide dissemination and implementation study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 199 ~ 206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12173	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto Naoki, Yasui-Furukori Norio, Hasegawa Naomi, (24名中略)、Hashimoto Ryota	4. 巻 63
2. 論文標題 Characteristics of discharge prescriptions for patients with schizophrenia or major depressive disorder: Real-world evidence from the Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education (EGUIDE) psychiatric treatment project	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Journal of Psychiatry	6. 最初と最後の頁 102744 ~ 102744
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajp.2021.102744	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Furihata Ryuji, Otsuki Rei, Hasegawa Naomi, (26名中略) Hashimoto Ryota	4. 巻 89
2. 論文標題 Hypnotic medication use among inpatients with schizophrenia and major depressive disorder: results of a nationwide study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sleep Medicine	6. 最初と最後の頁 23 ~ 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.sleep.2021.11.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasui Furukori Norio, Muraoka Hiroyuki, Hasegawa Naomi, (22名中略) Hashimoto Ryota	4. 巻 42
2. 論文標題 Association between the examination rate of treatment resistant schizophrenia and the clozapine prescription rate in a nationwide dissemination and implementation study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 3~9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12218	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ichihashi Kayo, Kyou Yoshitaka, Hasegawa Naomi, (34名中略) Hashimoto Ryota	4. 巻 69
2. 論文標題 The characteristics of patients receiving psychotropic pro re nata medication at discharge for the treatment of schizophrenia and major depressive disorder: A nationwide survey from the EGUIDE project	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Journal of Psychiatry	6. 最初と最後の頁 103007 ~ 103007
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajp.2022.103007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ogasawara Kazuyoshi, Numata Shusuke, Hasegawa Naomi, (38名中略) Hashimoto Ryota	4. 巻 -
2. 論文標題 Subjective assessment of participants in education programs on clinical practice guidelines in the field of psychiatry	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12245	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hisashi Yamada ,Mikuni Motoyama , Naomi Hasegawa, (40名中略) Ryota Hashimoto	4. 巻 -
2. 論文標題 Improvement of psychiatrists' clinical behaviors in accordance with the treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders using the 'Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)' project: Nationwide dissemination, education, and evaluation.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Br J Psychiatryh Open	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計47件(うち招待講演 0件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Ochi S, Tagata H, Hasegawa H, (31名中略)Hashimoto R.
2. 発表標題 Clozapine treatment is associated with higher prescription rate of antipsychotic monotherapy and lower prescription rate of other concomitant psychotropics: A real-world nationwide study.
3. 学会等名 CINP(33rd Committee of the International College of Neuropsychopharmacology) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山形弘隆、藤井優子、關友恵、長谷川尚美、橋本亮太、中川伸
2. 発表標題 EGUIDEプロジェクトによる統合失調症患者・うつ病患者に対する外来処方の変化
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大槻怜、降旗隆二、長谷川尚美、中村敏範、古郡規雄、小高文聰、堀輝、坪井貴嗣、沼田周助、柏木宏子、松本純弥、三浦健一郎、稲田健、渡邊衛一郎、鈴木正泰、橋本亮太
2. 発表標題 大槻怜、降旗隆二、長谷川尚美、中村敏範、古郡規雄、小高文聰、堀輝、坪井貴嗣、沼田周助、柏木宏子、松本純弥、三浦健一郎、稲田健、渡邊衛一郎、鈴木正泰、橋本亮太
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 五十嵐俊、坪井貴嗣、長谷川尚美、古郡規雄、越智紳一郎、飯田仁志、村岡寛之、高江洲義和、岡田剛史、柏木宏子、小高文聰、福本健太郎、三浦健一郎、松本純弥、稲田健、渡邊衛一郎、橋本亮太
2. 発表標題 入院うつ病患者におけるECT後の炭酸リチウムの処方実態について
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村敏範、降旗隆二、長谷川尚美、大槻怜、古郡規雄、坪井貴嗣、越智紳一郎、市橋香代、山田 恒、三浦健一郎、松本純弥、渡邊衡一郎、稲田健、鷲塚伸介、橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症患者の入院治療における睡眠薬増減の関連要因：全国調査の分析
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋本直樹、古郡規雄、沼田周助、飯田仁志、市橋香代、稲田健、降旗隆二、堀輝、小高文聰、長谷川尚美、橋本亮太
2. 発表標題 橋本直樹、古郡規雄、沼田周助、飯田仁志、市橋香代、稲田健、降旗隆二、堀輝、小高文聰、長谷川尚美、橋本亮太
3. 学会等名 第19回日本うつ病学会総会 / 第5回日本うつ病リワーク協会年次大会【合同開催】
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村岡寛之、長谷川尚美、古郡規雄、小高文聰、福本健太郎、柏木宏子、大井一高、松本純弥、三浦健一郎、稲田健、渡邊衡一郎、西村勝治、橋本亮太
2. 発表標題 うつ病の治療に対するEGUIDE講習の効果と重症度の付記の影響
3. 学会等名 第19回日本うつ病学会総会 / 第5回日本うつ病リワーク協会年次大会【合同開催】
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田剛史、福本健太郎、坪井貴嗣、長谷川尚美、村岡寛之、柏木宏子、越智紳一郎、五十嵐俊、飯田仁志、小高文聰、大井一高、高江洲義和、古郡規雄、三浦健一郎、松本純弥、須田史朗、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 うつ病に対する維持ECT患者に併用する薬物療法の実態
3. 学会等名 第19回日本うつ病学会総会 / 第5回日本うつ病リワーク協会年次大会【合同開催】
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田恒、本山美久仁、長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 うつ病治療ガイドライン講習受講効果の検討-ガイドライン講習前と受講後5年間のガイドラインに沿った臨床行動実践度の変化-
3. 学会等名 第19回日本うつ病学会総会 / 第5回日本うつ病リワーク協会年次大会【合同開催】
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本山美久仁、山田恒、長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 精神科レジデントに対するうつ病治療ガイドライン講習の効果の検討-ガイドラインに沿った臨床行動実践度の変化-
3. 学会等名 第19回日本うつ病学会総会 / 第5回日本うつ病リワーク協会年次大会【合同開催】
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田恒、本山美久仁、長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 ガイドライン講習受講前と受講後5年間の統合失調症薬物治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の変化-治療ガイドライン教育プロジェクト（EGUIDEプロジェクト）の効果検討
3. 学会等名 第44回日本生物学的精神医学会年会、第32回日本臨床精神神経薬理学会年会、第52回日本神経精神薬理学会年会、第6回日本精神薬学会総会・学術集会の4学会合同年会（BPCNP/PPP4学会合同年会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本山美久仁、山田恒、長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 精神科レジデントに対する統合失調症薬物治療ガイドライン講習の効果の検討-ガイドラインに沿った臨床行動実践度の比較-
3. 学会等名 第44回日本生物学的精神医学会年会、第32回日本臨床精神神経薬理学会年会、第52回日本神経精神薬理学会年会、第6回日本精神薬学会総会・学術集会の4学会合同年会（BPCNP/PPP4学会合同年会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名	越智紳一郎、田形弘実、長谷川尚美、古郡規雄、伊賀淳一、柏木宏子、小高文聰、小松浩、坪井貴嗣、徳谷晃、沼田周助、岸本泰士郎、堀輝、菱本明豊、松本純弥、三浦健一郎、上野修一、渡邊衡一郎、稲田健、橋本亮太
2. 発表標題	クロザピン治療は抗精神病薬の高い単剤率および他の向精神薬の低い併用率に関連する
3. 学会等名	第44回日本生物学的精神医学会年会、第32回日本臨床精神神経薬理学会年会、第52回日本神経精神薬理学会年会、第6回日本精神薬学会総会・学術集会の4学会合同年会（BPCNP4学会合同年会）
4. 発表年	2022年

1. 発表者名	長谷川尚美、安田由華、古郡規雄、市橋香代、小高文聰、堀輝、飯田仁志、村岡寛之、高江洲義和、三浦健一郎、松本純弥、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題	統合失調症とうつ病の治療に対するEGUIDEプロジェクトの効果：4年間の経年的変化に着目して
3. 学会等名	第44回日本生物学的精神医学会年会、第32回日本臨床精神神経薬理学会年会、第52回日本神経精神薬理学会年会、第6回日本精神薬学会総会・学術集会の4学会合同年会（BPCNP4学会合同年会）
4. 発表年	2022年

1. 発表者名	橋本直樹、古郡規雄、沼田周助、飯田仁志、市橋香代、降旗隆二、堀輝、小高文聰、長谷川尚美、松本純弥、三浦健一郎、渡邊 衡一郎、稲田健、橋本亮太
2. 発表標題	入院時処方比較からみた抗精神病薬単剤治療の実態調査 -EGUIDEプロジェクトデータより-
3. 学会等名	第44回日本生物学的精神医学会年会、第32回日本臨床精神神経薬理学会年会、第52回日本神経精神薬理学会年会、第6回日本精神薬学会総会・学術集会の4学会合同年会（BPCNP4学会合同年会）
4. 発表年	2022年

1. 発表者名	木戸幹雄、長谷川尚美、古市厚志、高柳陽一郎、高橋努、安田 由華、山本智也、渡邊 衡一郎、稲田健、橋本亮太、鈴木道雄
2. 発表標題	EGUIDE講習会の効果測定：富山大学附属病院における過去3年分の処方調査
3. 学会等名	第15回統合失調症学会
4. 発表年	2021年

1. 発表者名 長谷川尚美、安田由華、山本智也、渡邊衡一郎、稲田健、橋本亮太
2. 発表標題 EGUIDEプロジェクトによる退院時処方への効果～クロザピン治療と医療の質（Quality Indicator）との関係に着目して～
3. 学会等名 第15回統合失調症学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、安田由華、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究（EGUIDEプロジェクト）～処方行動に対する効果の報告～
3. 学会等名 D&I科学研究会（保健医療福祉における普及と実装科学研究会）RADISH第6回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯田仁志、伊賀淳一、長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、古郡規雄、橋本直樹、降旗隆二、坪井貴嗣、渡邊衡一郎、稲田健、橋本亮太、川崎弘詔
2. 発表標題 日本のうつ病の治療実態と課題
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催]
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本山美久仁、山田恒、長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 精神科レジデントに対する治療ガイドライン教育プロジェクト（EGUIDEプロジェクト）の効果の検討-臨床行動実践度の比較-
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催]
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小笠原一能、沼田周助、飯田仁志、長谷川尚美、松本純弥、三浦健一郎、尾崎紀夫、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太、EGUIDEプロジェクトチーム
2. 発表標題 「EGUIDEプロジェクト」受講者アンケートの解析から（第2報）
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催]
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田恒、本山美久仁、長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 治療ガイドライン教育プロジェクト（EGUIDEプロジェクト）の効果の検討-ガイドライン講習前と受講後3年間の臨床行動実践度の変化-
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催]
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村岡寛之、長谷川尚美、古郡規雄、福本健太郎、柏木宏子、小高文聰、松本純弥、三浦健一郎、稲田健、渡邊衡一郎、西村勝治、橋本亮太
2. 発表標題 EGUIDEデータから、うつ病重症度記載によるうつ病入院患者の薬物療法の变化
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催]
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福本健太郎、古郡規雄、村岡寛之、安田由華、市橋香代、飯田仁志、小高文聰、越智紳一郎、長谷川尚美、松本純弥、三浦健一郎、渡邊衡一郎、稲田健、大塚耕太郎、橋本亮太
2. 発表標題 「EGUIDEプロジェクト」うつ病治療ガイドライン適合度を用いた処方評価について
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催]
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯田仁志、根本清貴、長谷川尚美、沼田周助、山田恒、市橋香代、稲垣貴彦、小笠原一能、松本純弥、三浦健一郎、川寄弘詔、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 うつ病治療ガイドラインに関するWeb講習の有効性の検討～EGUIDEプロジェクトから得られた知見～
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催]
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古郡規雄、橋本直樹、長谷川尚美、沼田周助、堀輝、降旗隆二、飯田仁志、市橋香代、三浦健一郎、松本純弥、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 うつ病患者の退院時処方の特徴：EGUIDEデータより
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催]
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、安田由華、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 うつ病の薬物治療に対するEGUIDEプロジェクトの効果：2016～2019年の処方調査から
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催]
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 降旗隆二、大槻怜、長谷川尚美、坪井貴嗣、沼田周助、古郡規雄、伊賀淳一、山田恒、市橋香代、松本純弥、三浦健一郎、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 うつ病入院患者における睡眠薬処方の実態と他の向精神薬処方との関連
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催]
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坪井貴嗣、五十嵐俊、越智紳一郎、長谷川尚美、古郡規雄、飯田仁志、村岡寛之、高江洲義和、岡田剛史、柏木宏子、小高文聰、福本健太郎、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 ECTはうつ病入院患者の薬物療法をどのように変化させるか：EGUIDEデータを用いて
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会 [合同開催]
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本直樹、古郡規雄、長谷川尚美、沼田周助、飯田仁志、市橋香代、降旗隆二、堀輝、三浦健一郎、松本純弥、稲田健、橋本亮太
2. 発表標題 2177名の統合失調症患者の退院時処方についての検討 EGUIDE2016-2018年度調査の結果から
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会 合同年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安田由華、稲田健、飯田仁志、古郡規雄、堀輝、長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症薬物治療ガイドラインを用いたエビデンス・診療ギャップの検討について 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDEプロジェクト) より
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会 合同年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本山美久仁、山田恒、長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、渡邊衡一郎、稲田健、橋本亮太
2. 発表標題 精神科レジデントに対する治療ガイドライン教育プロジェクト (EGUIDEプロジェクト) の効果の検討 統合失調症薬物治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の比較
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会 合同年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田恒、本山美久仁、長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、渡邊衡一郎、稲田健、橋本亮太
2. 発表標題 治療ガイドライン教育プロジェクト（EGUIDEプロジェクト）の効果の検討 ガイドライン講習前と受講後3年間の治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の変化
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会 合同年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、安田由華、渡邊衡一郎、稲田健、橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症の薬物治療に対するEGUIDEプロジェクトの効果：2016～2019年の処方調査から
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会 合同年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀輝、古郡規雄、伊賀淳一、越智紳一郎、鬼塚俊明、姜善貴、高江洲義和、降旗隆二、村田篤信、長谷川尚美、渡邊衡一郎、稲田健、橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症患者における各施設における抗コリン薬併用パターンの特徴
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会 合同年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坪井貴嗣、五十嵐俊、越智紳一郎、長谷川尚美、古郡規雄、飯田仁志、村岡寛之、高江洲義和、岡田剛史、柏木宏子、小高文聰、福本健太郎、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 ECTは統合失調症入院患者の薬物療法をどのように変化させるか：EGUIDEデータを用いて
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会 合同年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、安田由華、稲田健、渡邊衡一郎、橋本 亮太
2. 発表標題 統合失調症とうつ病の薬物治療に対するEGUIDEプロジェクトの効果：2016～2019年の処方調査から
3. 学会等名 第5回日本精神薬学会総会・学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太、長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、安田由華、稲田健、渡邊衡一郎
2. 発表標題 統合失調症とうつ病の治療に対するEGUIDEプロジェクトの効果
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 降旗隆二、大槻怜、長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、坪井貴嗣、沼田周助、古郡規雄、伊賀淳一、山田恒、市橋香代、渡邊衡一郎、稲田健、橋本亮太
2. 発表標題 睡眠薬処方の実態と多剤処方の関連要因：統合失調症とうつ病患者の処方データの分析
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯田仁志、根本清貴、長谷川尚美、山田恒、市橋香代、稲垣貴彦、小笠原一能、沼田周助、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 Web講習の有効性の検討 EGUIDEプロジェクトから得られた知見
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田恒、本山美久仁、長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、渡邊衡一郎、稲田健、橋本亮太
2. 発表標題 EGUIDEプロジェクトの効果の検討 ガイドライン講習前後の治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の比較
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古郡規雄、長谷川尚美、村岡寛之、三浦健一郎、松本純弥、渡邊衡一郎、稲田健、橋本亮太
2. 発表標題 EGUIDEにおける治療抵抗性統合失調症の診断記載率とクロザピン処方率の関連性について
3. 学会等名 第31回日本臨床精神神経薬理学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 市橋香代、姜善貴、長谷川尚美、今村弥生、堀輝、山田恒、松本純弥、三浦健一郎、古郡規雄、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症及びうつ病と診断された患者における精神科退院時頓用処方者の性別及び年代別傾向について：EGUIDEプロジェクトのデータより
3. 学会等名 第31回日本臨床精神神経薬理学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、安田由華、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 EGUIDEプロジェクトが統合失調症とうつ病の薬物治療に与える効果の検討
3. 学会等名 第31回日本臨床精神神経薬理学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hasegawa N, Miura K, Matsumoto J, Yasuda Y, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R
2. 発表標題 The effect of EGUIDE project on medication for schizophrenia and major depressive disorder: from the 2016-2019 prescribing survey.
3. 学会等名 7th Congress of AsCNP 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤井優子、山形弘隆、關友恵、長谷川尚美、橋本亮太、中川伸
2. 発表標題 EGUIDEプロジェクトによる統合失調症患者・うつ病患者に対する外来処方の変化
3. 学会等名 第34回総合病院精神医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、安田由華、渡邊衛一郎、稲田健、橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症の治療に対するガイドライン講習の効果：4年間の経年的変化に着目して
3. 学会等名 第16回日本統合失調症学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究
<https://byoutai.ncnp.go.jp/eguide/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------